

道場ニ丁目宝暦2年庚申塔

(1752年)

戟?
矛?
劍?

宝珠?

庚申塔の上部には
天女が彫られて
います。

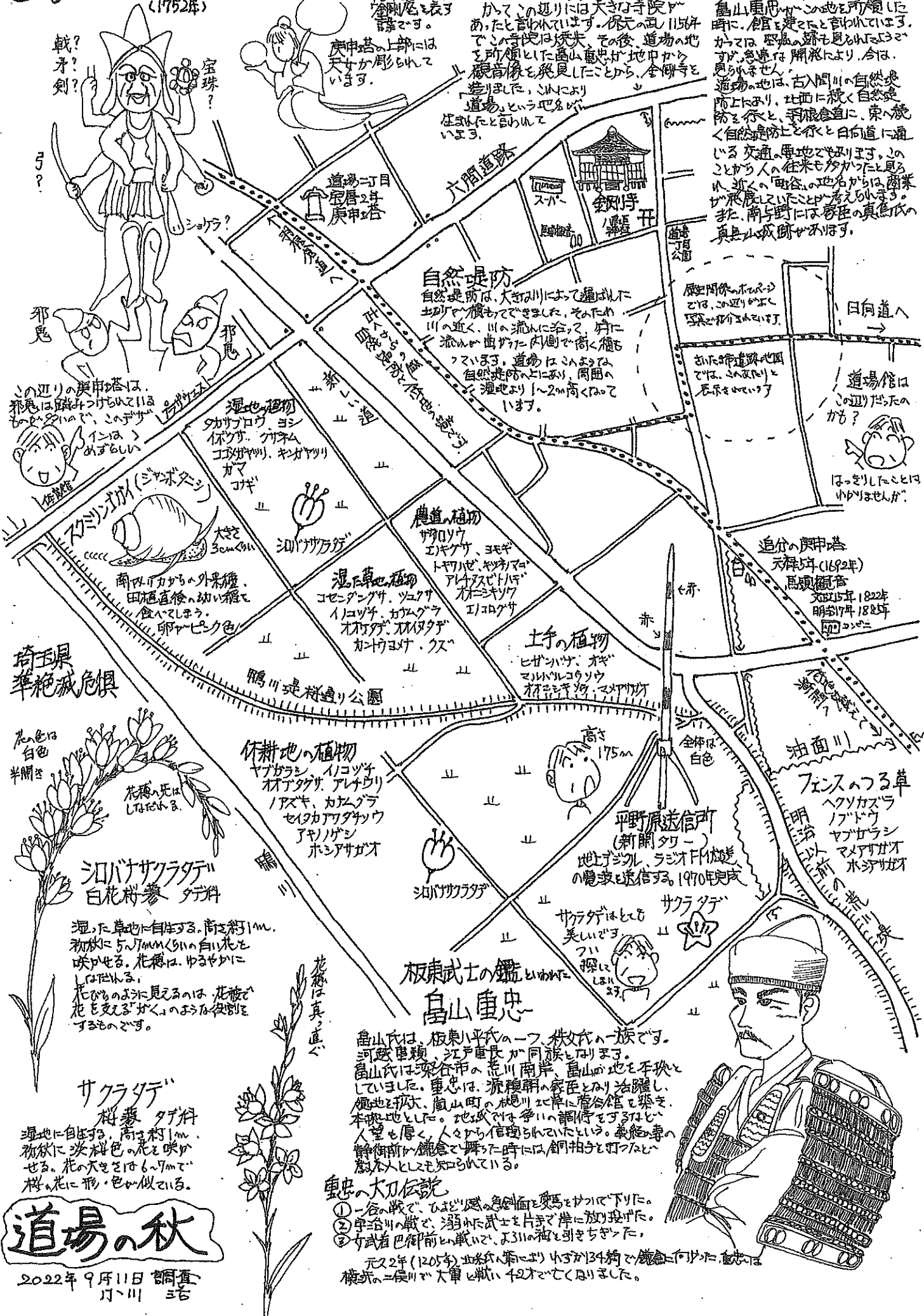
道場、とは、何々
悟りておられた場所
金剛尼を表す
塔です。

金剛寺

かつての廻りには大きな寺院が
あったと伝わっています。元禄115年
でこの寺院は焼失、その後、道場の地
で所領した島山重忠が地中から
観音像を発見したことから、金剛寺と
造りました。これにより
道場、という地名が
生まれたと語られて
います。

道場館跡

島山重忠がこの地を所領した
時に、館を建てたと伝わっています。
かつては、重忠の館跡と見られてきた
が、近年の発掘により、今は、
見つかっていません。
道場の地は、古く関川の自然堤
防上であり、北面に続く自然堤
防を行くと、手取倉倉に、東へ続
く自然堤防上を行くと日向道に通
じる交通の要地でもあります。この
ことから人の往来も多かつたと見ら
れ、近くの町谷。地名からは商業
が隆盛していたことが考えられます。
また、南と野には家臣の真島氏の
真島城跡がみえます。



埼玉県 華絶滅危惧



花の色は
白色
半開き
花穂の先は
しなだれる。
シロバナサクラダテ
白花梓蓼 タデ科

湿った草地に自生する。高さ約1m。
初秋に5~7mmくらい白い花を
咲かせる。花穂は、ゆるやかに
しなだれる。
花穂のよみに見えるのは、花被が
花を変え「おく」のよみに見える
するものです。

道場の秋

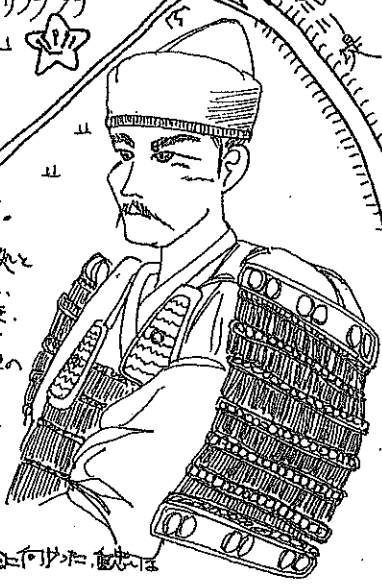
2022年9月11日 調査
川、川 三吉

板東武士の鑑 島山重忠

島山氏は、板東平氏の一族、秩父氏の一族です。
河越重頼、江戸重長が同族となります。
島山氏は津軽市中の荒川南岸、島山町を平換と
していました。重忠は、源頼朝の家臣となり活躍し、
領地が拡大、島山町の林田川北岸に管谷館を築き、
本拠地とした。地域では争いの調停をするなど
人望も厚く、人々から信頼されていたという。義経の
管谷前へ鑑を贈った時には、銅拍子と打つたとい
う説もみえます。

重忠の大刀伝説

- ① 谷の戦いで、むさし遠の急斜面を愛馬をかついで下りた。
 - ② 宇治川の戦いで、瀕死の武士を片手で岸に放り投げた。
 - ③ 女武者巴御前と戦いで、まじい袖を裂きちぎった。
- 元禄2年(1755年)北条氏(家)におりし34騎の鑑を向けた。重忠は
横城、二俣川の陣で戦い、42才で亡くなりました。



追分の庚申塔
元禄5年(1692年)
馬頭観音
文政15年1822年
明治17年1884年

平野原送信所
(新開タワー)
地上デジタル、ラジオFM放送
の電波を送信する。1970年完成

高さ
175m
全身は
白色

土手の植物
ヒサシサ、オギ
マルハルコグソウ
ササキヤブ、マアサギ

農道の植物
サボロク
エキグサ、ヨモギ
トコナゲ、キツネノマゴ
アレキスズドク、ハク
オニシキソウ
エノコグサ

湿地の植物
コセンダングサ、ツクシ
イノコヅチ、カマメグサ
オオアザミ、オオバコ
カトヨモギ、クズ

湿地の植物
スカサベロ、ヨシ
イグサ、クサキ
ゴボウヤリ、キナヤヅリ
ガマ
ジャギ



スズミソギ(シマボウシ)
南アフリカからの外来種。
田圃直後の幼い稲で
食入しよう。
卵がピンク色

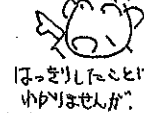
この廻りの庚申塔は、
邪鬼は蹴りつけておいて
おのれをいかに、この塔が
いかに、いかに
いかに

邪鬼
邪鬼

シヨウ?

ヨ?

道場館は
この廻りだったの
かも?



ほろりしたとこは
いかにせんか?

庚申塔、おのれに
おのれ、この廻りにお
おのれ、おのれ、おのれ

おのれ、おのれ、おのれ
おのれ、おのれ、おのれ

日向道へ

